いわき民報

平市田町四八番地電三八一番
編輯兼發行人　千葉輝巳
印刷人
日刊　但月曜を除く
定價一部一月二十円一部七十錢
發行所　いわき民報社

非難される配給事務
市民の關心漸く昂まる
と切親不理合非

各家庭にとつてもつとも重要な關心事は配給であり殊に物資が缺乏して來ればなお更にその適正迅速化が強く要望される、この市民のお台所を切廻すべき市の配給事務はどうか、二十三日行はれた幼兒用衣類の配給と病人用として特配すべき鷄卵、更に他町村では配給を完了した縫針の末配給などいかに市の配給が非合理的であり不親切極まるものであるかが窺はれ一部の人々から早くも非難されている

市民は雨中に行列
形式一點で親切心更になし

三才から七才までの幼兒で未だ配給を受けていないものに幼兒用衣類を二十三日午前九時から公會堂日本間入口で行つた、この日愛兒に新らしい外衣を買つてやりたいものだと配給券をもらいに集つた人々は早朝五時から詰めかけ折柄の雨にたゝかれて遂くは平鍾や鎌田方面から足袋裸足で來たものさえありその行列は定刻までに百數十人を數えまた市吏員の受付事務も一々住所氏名と捺印を求めたために遲々として進まず傘を持つもの、待たずに雨にぬれて背の子供が泣く人、配給券一枚でこんなに苦勞させる市のやり方がまずいと非難するもの風邪引いて病氣になる、平鍾と鎌田方面には事情を考慮して受付け事務を適當な場所へ開いてもらいたい、一体公選市長はこの有樣を知つているのかと市當局の配給方法について俄然非難するものが多くなりこの行列に唯の一人も好感を寄せたものはなかつた

又この配給では市民を雨の降る外へ待たせて吏員だけが雨除けの日本間入口と自動車々庫の中で受付けて知りこの一事を以つてしても市民の公僕たるべき係員の態度が如何に不親切であるかがうかがはれる風景であつた

配給日取りも
勝手に變更

市民を間誤つかせた病人用鷄卵配給

病人用の鷄卵配給は二十四日から始まつた、これも本紙に對しては二十一日から配給開始と申出て置いて一方郡山放送局へは二十三日と一日勝手に繰延しその實二十三日には配給をしていない、病氣で醫師の證明さえ持參すれば窓口で現品引換えに一個二円の割で特配する譯になつているものを新聞及びラジオで始めて知り既付げた市民には二十四日からはい給しますと雨の中をわざ〳〵やつて來た市民を空戻りさせている

この鷄卵は摘發品で市は給課に渡るまでには相當の日數がかゝつていることも想像されるしこれを早く市民の手元へ届けないと變質の恐れすらあり迅速なはいきゆうが望まれていたもので現品を引取つた即日から受はでいる該當者には渡すべきものであつた

このため各報導機關を通じて周知徹底に努めていても一体鷄卵の行方はどこか、わざ〳〵醫師の證明を持參したものもいるのに鍛冶町市役所倉庫に二百個余りの卵が眠つていたのである

縫針の配給
まだ未起案

市に縫針の配給通知が入つたのは一週間以上も前である、これも未だ配給するどころかその計畫さえ起案されずに配給課の手元で眠つている、既に他町村では配給が濟んで各家庭へ現品も届いている始末であり例え針一本と云えども迅速に配給するのが當然でありその怠慢振りは何に原因であろうとその事實は非難されている

事實とすれば
申譯なし

關場課長談

幼兒衣類の配給は地域的に受付所を分けることになつていたはずだ、その點一ケ所に限定したのは遺憾である、卵は二十三日から配給しているはずだとおもうがまだしていないとすれば申譯ない、針は當課で配給計畫をたてることになつているとすれば一切は柴田主任の手元で立案することになつている

濡れたり量目不足
市の砂糖配給に非難の聲

平市の主食代替砂糖のはいきゆうは二十三日から始まつたがこのはいきゆう品のうち量目が一人當り十匁から二十匁位不足のまゝで市民に渡した例が市内新川と田町にあり更に入荷した貨車から公園倉庫まで折柄の雨にぬらしたままで運搬したので濡つており「ぬれた砂糖は目方も加はつているはずだが量目がかえつて殺ないとは濱憾だ」として非難されている

てたらめは
迷惑至極

消費者側の談

右について田町鈴木肇介氏は語る

はいきうとは少ない物資を公平適正かつ迅速になるべく多くの人たちに渡すことであるのは既にはいきう所の係員も充分知つているはずだ、ところが現在のはいきうはどうか、これを今度の砂糖についても一人八百瓦で四人家族の場合は三㌔二百瓦であるはずなのが三㌔三十七瓦しかなかつた、念のため他のはかりに掛けて見ても同樣である、これを一瓦二錢四厘として計算すれば不足量百六十三瓦は三円八十五錢でありこれだけが價値となる、またこんなに濡つた場合でも同じ目方ではかればその量に差のあることは小學生でも知つていることだ、政府の公團で然も連合國好意の放出物資をこう粗雑目にやられては困る

良く調べる

貨車の中でぬれたものが澤山あつた

食はい公團平田張所談

量目が粉ないことは各はいきゆう主任に任せてありそう云う事はないと信じている、驛から倉庫まで運ぶ途中ぬれたのは僅かだ、貨車の中でぬれて來たのが澤山あつたからそれを完して非難しているのでしよう何れにしても各主任に責任を持たせてあるから良く調べて

專賣局を急襲
十六件をきのうヤリ玉に上ぐ

見ましよう

專賣局平田張所では二十三日平市内を始め好間、永戸三方部の私設專賣局を蠢襲、好間村上好間農商木達吉（六〇）方十藏タンス内に煙タバコ百二十キロ、手巻五千本を押收したほか十五件をやり玉にあげ葉タバコ百四十四㌔、手巻八千五百九十六本、荒切り葉タバコ六㌔、巻紙五萬四千七百枚の禁物をみた

人手不足が大きな原因

（柴田配給主任談）

すべては人手不足が原因だ卵もこゝ一、二日中は配給出來ないと思う、手が廻らないので事務が滯滯し針なども放つて置く始末だ、幼兒衣類に就いても方法がない私は今から福島へ行かなければならないので忙しい

鷄卵は該當者が來ないだけ

（矢吹配給係談）

卵は二十三日から始めており、ただ該當者が來ないので倉庫に保管中です、若し醫師の證明書持參して來たものがあれば私が一々倉庫まで行つて配給分だけ待つて來ます

卵の配給は二十四日に

（綠川窓口係員談）

卵は二十四日から配給するように主任から云はれており折角來た人にもその旨申しております、課長さんや主任さんが二十三日から始めたと云つてもそれは事實ではありません

展破校で
突機藝技
危力平
電
27日から

東北はい電平營業所では平民主電力協議會、電產平分會勞組の應援で來る二十七日から二十一日の五日間市内田町の平技藝學校（舊聯田女學校）に於て危機突破電力展覽會を開き、一般電力使用者に

性病科
内科
西南鎌田町　矢吹醫院
電828

いわきすい
無料で開放し、電力の綴生から使用、電氣用語或は現在の電力事情は何故危機に瀕しているか等々、かたわら電氣相談所を毎日朝九時から午後四時まで需要者に對する電力使用問題に就いて種々相談にも應じる

◇はいきゆう面に非難多し、机上立案の罪、大衆を度外視している罪

◇役人根性をぬいて大衆の一人になつてはいきゆうに當れ非難は生れきいゝのぞ

◇雨漸くあがる、久ぶりに仰ぐ天日の有難さ

近火御見舞御禮

昭和二十三年三月二十三日　石城郡江名町大字下神白字網取坪立地

皆川食品工業所
所長　皆川太丸
工場長　馬上速
電（小名濱）三一四番

電機工業、搾油
製パン、製粉
精米麥、飼料
委託加工業

公武合体論者 安藤對馬守信正

維新史料國民史料による

史談會員　鈴木光四郎

八月六日

しん翰を九條關白に賜い參議橋本實麗等をして皇妹和宮に降嫁のことを勸められた。如例亂筆高免御推覽賴入候事。何茂荒々數天象に候處髏々御安全令賀候。

然者和宮緣組の儀過々關東より申越誠に不得已無余儀次第に候。

八月六日

先日橋本宰相將面談の節申口にも前條の通候はば本人えも勸め可申由にも候へ共直對にては勢酌の邊も有之候間右邊篤と勘考取計可有之候。且有栖川宮の處も程能勘考有之樣と存候。和宮の處未だ不說得候間得參公（九條關白）宰相中將（橋本實麗）等面會にて右の樣

八月六日

關白殿之

八月八日

和宮は降嫁拜辭の書を上つた。

何さてさて　おどろきゝ參候。何とぞ此儀は恐入候へ共幾重にも御斷り申上度願參候。

御上御そば御はなれ申上遙

郡合兄商量有之候はば此邊にて內定にも及候半か。何分兩人之段々の無余儀次第を吳々も早々說得有之度候。此段早々申入候。何も荒々就ては二日御入來のみぎりの武邊書札を兩人之方御見せ可篤尊一事。

八月六日　此花

關白殿之

八月八日

和宮は降嫁拜辭の書を上つた。

何さてさて　おどろきゝ參候。何とぞ此儀は恐入候へ共幾重にも御斷り申上度願參候。

御上御そば御はなれ申上遙

々まいり候為ま事に心細く御察し藏度、吳々も恐入候へ共よろしく願上參候。折から御用心樣あらせられ候樣存上參候。めで度かしくけふもよきはれにおわしまし候。彌々御機嫌よく成らせられめで度有りがたく參候左樣に候へ者、私事關東之候參り候事御斷り申上候處、御上にも御不承知にてあらせられ候ま安心のやう仰いただき辱り參候て御禮申上候せう御書にて安心の樣仰せいただき誠に大安心辱り參候。昨日御沙汰のよしにて關白樣より御委く宰相中將之御上汰のよし

にてかしく。

八月八日　かず上

言上　謹そ申給へ

以上は和宮が降嫁の件について拜辭なされた次第を申し述べられたものである。孝明天皇は和宮が拜辭なされた事を御聞きになつて非常に御心配あらせられた。その結果安政六年に御牢れになつて當年二才の壽万宮を和宮に代つて降嫁せしめられようとなされた。

八月十三日

しん翰を九條關白に賜い第三皇女壽万宮を以て和宮に代つて降嫁せしめんとの叡慮を幕府に傳達しめた。

手痛い價格表示違反

湯本町四雜貨商ヤリ玉に上る

價格表示違反で去る五日湯本署にあげられた四名は平地裁でこの程次の通り行政處分にされた、いづれも罰金三千円から五千円、おまけに營業停止まで食つたものもあり、ヤミ商人には手痛い處分である。

◇湯本町三函雜貨商吉田三光（三六）はタラの子四貫八百匁とネギ二貫匁の表示をおこたり營業停止の上罰金五千円◇全町向田雜貨商梅津ハル（四六）は乾カレイ三百匁の表示違反で罰金三千円◇全町天王崎雜貨商丹野イカ（六六）は野菜二貫匁の表示をおこたり罰金三千円◇全町天王崎雜貨商三浦今朝吉（四四）はイモ四貫匁の表示違反で營業停止の上に罰金四千円

植田町會

植田町では二十七日午前九時から役場會議室豫算町會を開いて二十一年度決算及び二十三年度新豫算案を附議する

道水上商名小

二十六日に 通水可能

今後當分心配なし

放隙驛水路出の小名濱上水道問題は各方面から重視されて町會委員會でも問題視されているが、二十三日の委員會上席上小泉主事は左の如くに發表した

放隙驛個所は渡邊村雲野地內のサイホン設備地點で去る十日サイホン上流からの吹込口の破壞で共修繕工事が十五日に竣工通水した處サイホン內部に故障あり通水不可能となつた、依つて當日直ちに着工サイホンの

モロッコへの道 觀賞講演會

セントラル社主屋太郎氏

平AMPクラブでは二十七日（土曜日）聚樂館で上映中のモロッコへの道の觀賞會を行う。通知ハガキ持參者には割引をする、當日はセントラル社宣傳部土屋太郎氏も來平全館で講演する、

補修工事を捨てシエーム經八百ミリ管に依つて送水は供給する事に計畫を健て晝夜兼行で工を進めているから二十五日中には竣成二十六日には早朝より送水可能である、今後は當分心ばいなき上に晝野上流より迂回して本線水路に入る工事も五月中竣成するので上水道の危機を完然に突破し得ると信ずる

私の好きなものは

終戰後世の中がガラリと一變、人々の思想にも大きな影響があつた、サテ今日崇拜される人物は、政黨はどんなものか又趣味は——

以下は本社の趣味好きな人物及び政黨の三問に對する回答であるが、こゝにも世の動きがにじみ出しているとみられる

⑤

課題

一、趣味は

二、好きな人物は

三、好きな黨派は

縣農業會石城支部長　蛙田一郎

一、野球、釣り

二、なし

三、なし、強いて云へば自由黨

磐城貨物平營業所長代理　片桐重治

一、讀書（亂讀）

二、個性のはつきりした人

三、勤勞大衆の味方となる樣な政黨

磐城貨物平營業所運轉手　後藤幸作

一、釣

二、二宮尊德（よく働くから）

三、働く者に働きいゝ樣な政治をしてくれる黨なら何黨でも好い

縣農業會石城支部　吉田節子

一、和歌

二、湯淺年子

三、社會黨

磐城貨物平營業所運轉手　瀧田平藏

一、スポーツ

二、天皇陛下

三、働く者に働きいゝ樣な政治をしてくれる黨派なら何黨でも好い

內郷第二中學校教員　高木隆四郎

一、旅行と釣

二、篠田容雄

三、社會黨

さかいや百貨店主　岡崎榮藏

一、商賣、演劇

二、明治天皇

三、最近に至つてどの黨派がよいやらわからない雜魚を打開出來る政黨の出現をのぞむ

植田驛での列車取締

獲物依然として多し

植田地區自轉車警察共同のもとに二十一日列車取締りを行つた結果は左の通り

▽米二五四キロ、三二五件▽大豆四六キロ、四四件▽小豆二七六キロ、四二件▽丸麥三五キロ、四件▽うどん二貫、一件▽魚類一一九貫四一〇匁、四十件▽煙草一五貫、二〇件

荷馬車のタイヤ盜まる

——市內下平鐘字屋越晨吉田信也さん（四八）方で去る十八日夜自宅軒下に置いた荷馬車の兩タイヤ（時價八千円相當）を巧みに外し盜まれた

自轉車諸共 夏井川心中

赤井村西小川平機關區助手千葉二三君（二〇）は二十三日晝ごろ下小川村地內で高さ十八尺の夏井川へ自轉車もろとも轉落し死亡した

最高は何と七万圓

人氣呼んで桶賣二才駒市

石城郡川前村桶賣市場で十九日から二日間開かれた二才駒市で初日は八十九頭、三百二十九万二千四百円（一頭平均三万九千一百九十五円二十三錢）第二日目は六十一頭百九十九万八千一百円（一頭平均三万二千七百五十五円七十二錢）で二日間の總上高合計五百二十九万五百円の（一頭平均三万六千四百八十六円三十錢）となつた最高値を呼んだ赤塚スイさん所有の未光猪狩金次さんの晴天はそれぞれ七万円という素晴しさを示したが最低となると一万九千円というのもあつた、平地區署では兩日とも武藤警官を出張警戒させた

神經科　精神科　電15
內科
平市塩釜小路　アラタメ
新田目醫院

蔬菜特產地 設定協議

あす地方專務所で

縣では平市を中心とした蔬菜の自給圈確立を目ざして二十五日午前十時から石城地方專務所に平、飯野、夏井、神谷草野の各關係者を集め蔬菜特產地設定の打合會を開き生產や出荷などについて意見を開陳する

四倉驛貨物ホーム擴長

二十六日實狀調査

四倉驛では貨車ホームの擴張を仙鐵局へ陳情中だつたが一十六日同局から實情調査員が派遣されることになつた、現在のホームを約十米延長してセメント、鮮魚、石炭等一ヶ月二千トンの積出しを望んでいる